Encyclopedia of Aesthetics

美学の事典

美学会 編

The Japanese Society for Aesthetics

A5判・768頁 定価(本体20,000円+税)

ISBN978-4-621-30542-3

編集委員長

吉岡　洋　京都大学こころの未来研究センター 特定教授

編集副委員長(五十音順)

岡田　温司　京都精華大学大学院芸術研究科 特任教授
津上　英輔　成城大学文芸学部 教授

編集委員(五十音順)

青木　孝夫　広島大学大学院人間社会科学研究科 教授
小田部　胤久　東京大学大学院人文社会系研究科 教授
加須屋　明子　京都市立芸術大学美術学部 教授
加須屋　誠　京都市立芸術大学芸術資源研究センター 客員研究員
加藤　哲弘　関西学院大学文学部 教授
木村　建哉　成城大学文芸学部 准教授
樋笠　勝士　岡山県立大学デザイン学部 特任教授
前川　修　近畿大学文芸学部 教授
室井　尚　横浜国立大学 名誉教授
吉田　寛　東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
渡辺　裕　東京音楽大学音楽学部 教授

*所属・肩書は2020年10月現在

最新情報・詳細は
こちらから!
丸善出版ホームページへ

丸善出版

刊行にあたって（一部抜粋）

学問としての美学とは、いったいどんな研究分野を指すのだろうか。この言葉には、範囲の異なった二つの意味が重なっている。ひとつは美の理念、美的な判断や経験、感性や感情、芸術表現といった主題に関する、理論的な研究を意味する。この意味における美学とは、哲学の一分野であると言っていい。これがいわば狭義における美学である。一方広義における美学は、そうした理論的関心を共有しつつ、芸術の各分野における活動や作品について行われる諸研究の、総括的な呼び名としても用いられている。

美学を学ぶ人々の研究団体である美学会は、日本では1948年に設立された。欧米、東アジア、ラテンアメリカをはじめとする国々にも美学会は存在し、それらを統合する国際美学会は1988年に組織された。これらのいずれにおいても「美学」は広義の意味で用いられている。つまりそこには、美や芸術に関する哲学的研究と並んで、文芸、美術、音楽、演劇、映画に加えて、20世紀以降の多様化した芸術表現、ポップカルチャー、メディア芸術についての研究分野が含まれているのである。

本事典の各章に即して説明するなら、まず第1章「美学理論」が上に述べた狭義の美学に相当する。とはいえ、かつては美学研究の中心をなしていた古代・中世・近代の西洋思想ばかりではなく、日本や東アジアにおける美学理論、日常性やジェンダーといった現代的なトピックも取り上げられている。

第2章は「美術史」であるが、時間軸に沿って歴史的に概説するのではなく、最新の美術史研究において注目されている、様々なトピックや問題提起を切り口とすることによって、今日美術についていかに考え、語ることができるのかを紹介するものとなっている。続く第3章「現代芸術」においては、歴史的アプローチだけでは捉えきれない、現代の多様化した芸術活動、いわゆる「現代アート」にまつわる様々な疑問に答えている。いずれの章も、美術や現代アートのことが気にはなるが、どこから手を付けていいのかわからないと感じている方々に活用していただければ幸いである。

第4章「音楽」は、西洋のクラシック音楽に関わる重要なトピックに加えて、民族音楽、ポピュラー音楽や邦楽、そして音響や聴覚文化といった視野からも考えるという、現代の音楽研究の拡がりを反映した構成となっている。第5章「映画」においても、映画史や作品、作家に注目するよりも、映画と社会との関係にまつわる様々なテーマを手がかりに、映画を通して現代を考えるという側面が強くなっている。21世紀初頭の現在、デジタルメディア技術の普及によって音楽も映画も急速な変化の渦中にあるが、この現実に美学はどうアプローチしているかを知ることができるだろう。

第6章「写真・映像」は、現代の私たちにとってもはや言葉の一部とも言える複製的イメージについて、光学写真の起源から、イメージと現実や芸術との関係、デジタル化、アニメーションといったトピックを考察するものである。第7章「ポピュラーカルチャー」の項目を一覧していただければ、私たちが日常的に親しんでおりマスコミで取り上げられることも多いトピックであるが、ではそれらを理論的・学問的に研究するにはどうすればいいのか、本書でその手がかりが得られると思う。

最後の第8章「社会と美学」は再び美学の理論的側面に着目し、美学を現代社会の諸問題へと応用する試みである。日常生活、人生、政治、社会、環境といった広範囲にわたる主題について、それらを美学という観点からどのように考えることができるか、いわば美学的思考の及ぶ最大範囲を示すものとなっている。巻末に、これから美学を勉強したい人のための案内となる「研究手法」、そして美学を生命圏や宇宙の中で考える「美学の臨界」を付録とした。

2020年10月

編集委員長 吉岡 洋

第1章 美学理論
[編集担当:青木 孝夫・小田部 胤久・樋笠 勝士]

美学── 西洋近代の文脈における
美学── 西洋古代・中世における
明治・大正期における日本の美学の受容と展開
中国の近代美学の形成
韓国の近代美学の形成
比較美学
作品美学・受容美学
分析美学
環境美学
雰囲気の美学
日常性の美学
ジェンダーと美学
アイステーシス
身体美学
生の美学
実験美学
神経美学
デザイン論の展開
芸術の誕生
芸術・芸能
技と道
カノン(化)あるいは伝統と刷新
芸術の社会的機能
芸術の定義・芸術作品の存在論
ミューズ的芸術
芸術の終焉
模倣と創造
詩学・弁論術(修辞学)
芸術愛好家(ディレッタント)
批評・解釈の役割
ナラトロジー(物語論)
メタファー・アレゴリー・象徴
アートワールド
隠者・文人
美
日本の文芸理論と美意識の展開
風流・いき
おぞましいもの
カロカガティア
美の無関心性・美への関心
美的経験
感性(センス)
共通感覚
無感覚性(アネステシア)
イメージ
芸術と教養(自由学芸と六芸)
美的カテゴリー
古代的美意識と芸能の展開
感性／趣味の共同体
文化産業
文化資本(無関心、卓越化、美的教育)
文化ナショナリズムと芸術
ライフスタイル
[コラム] 美学と批評はどんな関係にあるのだろうか?

第2章 美術史
[編集担当:岡田 温司・加須屋 誠・加藤 哲弘]

「名前のない美術史」
イコノロジー
ニューアートヒストリーと、その後
イメージ人類学
エクフラシス
ジェンダーと美術史
絵の中の観者
具象と抽象
物質性(メディウム／マチエール)
視覚性と触覚性
異時同図法
空間表現の多様性
象徴としての色彩
素描(ディセーニョ)VS. 彩色(コロリート)
工房の親方としての芸術家
芸術家と「狂気」
パトロン
パラゴーネ
マニエリスム
グロテスク
感情表現
アカデミー
古典主義
風俗画
「風景」の発見
オリエンタリズムと美術
聖遺物と美術
偶像崇拝と偶像破壊
近代のデザインと建築
彫刻は本当に退屈なのか
庭園術
活人画(タブロー・ヴィヴァン)
版画と素描
印象派と写真
自然科学と美術
美術市場
贋作と模写
保存と修復
目利きと鑑定
ミュージアム
装飾
先史美術
グローバル・アート・ヒストリー
中国絵画論
日本美術誕生
アジアの中の日本美術
王権と絵画
仏教美術
六道絵
絵巻物
水墨画
浮世絵
戦争と絵画
フランス近代美術を中心とする、西洋近代美術の日本での受容
[コラム] 美術史を知らないと美術は理解できないのか?

第3章 現代芸術
[編集担当:加須屋 明子・室井 尚]

芸術(アート)はどこに向かっていくのか
抽象表現主義とモダニズム批評
戦後美術の展開
冷戦時代の芸術(アート)

具体
対抗文化
還元主義
ポップアート
フルクサス
発注芸術
環境芸術の展開
身体表現の革新
「芸術の死」以降の芸術(アート)
野外美術の展開
技術革新と芸術(アート)
アートを支える人々
展覧会から国際芸術祭へ
ドキュメンテーションとアーカイブ
被災地支援と芸術(アート)
芸術(アート)と検閲
アートプロジェクトの諸相
医療と芸術(アート)
引用・盗用と芸術(アート)
批評は死んだのか
アートフェアとマーケットの拡大
サウンドアート
アートパワー
ポストメディウム/ポストメディア
地域の芸術祭
アジアの現代芸術の行方
オルタナティブスペース
戦後演劇の展開
政治と芸術(アート)の関わり
美術ジャーナリズムの役割
行政と美術
ジェンダー論と芸術(アート)
地域格差
アール・ブリュットとアウトサイダー・アート
建築と美術
建築美学
芸術(アート)とポストモダニズム
芸術(アート)とファッションの融合
芸術人類学から見た現代芸術
美術教育
パフォーマンス
映像の氾濫
脳の中の劇場
もの、こと、わけ
芸術(アート)とアマチュアリズム
現代芸術
[コラム] 現代アートに「イラだつ」人がいるのはなぜ?

第4章　音楽
[編集担当:渡辺 裕]

音楽理論(古代から中世へ)
音楽理論(ルネサンスから近代へ)
音楽理論(近代)
音楽理論(20世紀前半)
音楽理論(20世紀後半)
音楽理論(現代)
音楽環境(貴族社会)
音楽環境(市民社会)
楽譜と音楽
レコードと音楽
インターネットと音楽
カノン形成
原典資料研究
音楽修辞学からトポス論へ
演奏研究
ジェンダー論と音楽
行為としての音楽
複数形の音楽
イラン音楽
トルコ音楽
東欧民俗音楽
ポピュラー音楽
「真正」なロック音楽は存在するのか
日本音楽の概念と歴史
雅楽
演歌
サウンドスケープ
聴覚の考古学
音の記録・保存・消費
聴覚文化と歴史研究
聴覚文化と視覚文化
[コラム] ボーカロイドは「歌って」いるのだろうか?

第5章　映画
[編集担当:木村 建哉]

古典的ハリウッド映画
スタジオシステム
作家主義
ヌーヴェルヴァーグ
3D映画
商業映画と自主映画
フィルムアーカイブ
ドキュメンタリー映画
実験映画
映画と検閲・自主規制
デジタル時代の映画鑑賞
ニューヒストリシズム
VFX(視覚効果)
モンタージュとフォトジェニー
フェミニスト映画理論
CGアニメーション
初期映画
映画と性的マイノリティ
ブラックムービー
認知主義映画理論
映画祭
映画とグローバリゼーション
[コラム] 映画はいまや誰にでも撮れるのだろうか?

第6章　写真・映像
[編集担当:前川 修]

写真の起源
写真と記録
写真と芸術
写真と現代美術
写真と所有
写真と複製
写真と静止/運動
写真の流通
写真の記号論
ヴァナキュラー写真
デジタル写真
映像の起源
映像と運動
映像と現実
映像と身体
実験アニメーション
映像とスクリーン
[コラム] 写真を使う「美術家」と「写真家」とはどこが違う?

第7章　ポピュラーカルチャー
[編集担当:吉田 寛]

ポピュラーカルチャーと美学
遊びとゲーム
アニメーションとアニメ
マンガ
ファッション
ライトノベル(キャラクター小説)
キャラクター
同人文化
ポルノグラフィ
アイドル
スポーツ
記号消費としての食
[コラム] 「ポップ」ってどういう意味なのだろうか?

第8章　社会と美学
[編集担当:津上 英輔]

健康と美学
社交性と美学
子育てと美学
消費と美学
食と美学
掃除と美学
「書く」ことの美学
アーカイブと美学
経営学からみたアートの新展開
感性工学と美学
科学と美学
政治と美学
共同体と美学
交通と美学
観光と美学
地域おこしと美学
森と美学
平和と美学
信仰と美学
災害と美学
マイノリティと芸術
障害者のための美術
芸術行為と犯罪行為
「かっこいい」の美学
「かわいい」の美学
[コラム] 美学は人を幸福にするのだろうか?

付　録
[編集担当:吉岡 洋]

【1】研究手法
美学会、その他関連する学会について
美学のための外国語学習
美学の論文を書くには?
美学や芸術研究の本はどう読むべきか
美学はどこで研究できるか?

【2】トピック── 美学の臨界
ネアンデルタール人は絵を描いたのだろうか?
「芸術」としての先端テクノロジー
「動物倫理」があるなら「動物美学」もある?
人工知能(AI)に芸術は可能だろうか?
「感性」は至るところで働いている

見出し語五十音索引
参考・引用文献
事項索引
人名索引

2020年12月刊行予定

Encyclopedia of Aesthetics

美学の事典

美学会 編

The Japanese Society for Aesthetics

A5判・768頁 定価(本体20,000円+税) ISBN978-4-621-30542-3

「絵」「音楽」「映画」「写真」「文章」「風景」「所作」「心」――これらは全て「美しい」で修飾可能です。では一体、あらゆるものに向けられる人間の感性は、どのように動き、何に動かされるのでしょうか。洞窟壁画からVRまで、「美しい」から「醜い」まで、人間の感性を概観し、新たな思索の入り口となるたいへんユニークな一冊です。

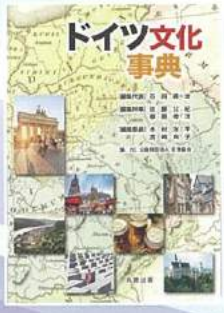
関 連 書 籍

展示学事典

日本展示学会 編

A5判・642頁
定価(本体20,000円+税)
ISBN978-4-621-30359-7

展示という、総合コミュニケーション・メディアの成立ち、歴史、種類、つくり方、利用法、社会性など、重要事項を192項目で解説。



ドイツ文化事典

石田 勇治 編集代表

A5判・744頁
定価(本体20,000円+税)
ISBN978-4-621-30564-5

ドイツならではの文化やスポーツをはじめ、政治や芸術など歴史上の人物を紹介。多様なドイツ文化の奥深さをわかりやすく解説。

(普及版) スクリブナー思想史大事典

全10巻

スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会 訳
野家 啓一 翻訳編集委員長

B5判
揃定価(本体240,000円+税)
〔分売可〕
各巻定価(本体24,000円+税)
ISBN978-4-621-30524-9~30533-1

旧版原書から40年ぶりの新版邦訳ついに刊行!哲学・思想・宗教・文学・言語・心理・芸術・政治・経済・社会・教育など、人文科学、社会科学、自然科学という学問の枠を超えて、時代の知の形態と変容に関心をもつ研究者必須の総合事典。

アメリカ文化事典

アメリカ学会 編

A5判・958頁
定価(本体20,000円+税)
ISBN978-4-621-30214-9

最新の研究動向を反映しアメリカ文化の多様な側面を、20章立て、370以上の項目でわかりやすく解説する中項目事典。

■好評既刊文化事典シリーズ

「フランス文化事典」「イタリア文化事典」「スペイン文化事典」「イギリス文化事典」「日本文化事典」「中国文化事典」「北欧文化事典」「インド文化事典」「東南アジア文化事典」「ロシア文化事典」「中東・オリエント文化事典」

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 書籍営業部 TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270
https://www.maruzen-publishing.co.jp

丸善出版株式会社 行　FAX 03-3512-3270

注文書

美学の事典 定価(本体20,000円+税) ISBN978-4-621-30542-3 ＿＿冊

＿＿冊

お名前

ご住所 〒

TEL

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.20.A0C